

■第1回白鷹町史談会役員会報告

6月22日(水)に総会以降初めての役員会を開催しました。新役員での会合です。

話された内容は

- 1 史談会 60周年の記念事業について
 - ①記念誌
 - ・『会報』第28号を記念号として編集する。
 - ・目次案は次回の役員会に提示する。
 - ②記念式典
 - ・本年度研修会の時に開催する。
 - ・期日は、平成29年2月18日(土)を予定する。
 - ・次第は
記念式
記念シンポジウム
テーマ 鮎貝の歴史と文化(仮)
祝賀会
- 2 「白鷹町 我が家のお宝展」での「獅子舞シンポジウム」のこと
 - ・白鷹町史談会として後援をする。
 - ・正式決定次第、会員にお知らせする。
 - ・運営に協力する。

このようなことでした。なお、会報の原稿を皆さんにお願いすることになると思います。前回の記念号の場合は、400字程度で多くの会員の方々に御寄稿いただきました。今回もそのように考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

■湯殿山への道のり(その3)

伊藤 隆

掲載する写真は私(伊藤)が撮ったもののほか、丸川桂一郎さん、布施範行さん、志田菊宏さん、高梨みささん、江口儀雄さん、木村さんから提供していただいております。

13時40分古寺に至り人家を久しぶりに見てなんかホッとす。さらに進んで14時ちょうど地蔵峠、ようやく雨が止んで雨具を脱ぎ白装束姿となる。お天道様の有

難味をしみじみ感じる。ここから根子までの道のりも長い。

根子15時15分着、ここからは集落の中を、法螺貝を時々鳴らしながら進む。車で通る人や農作業の人から物珍しげに見られる。清水原佐藤邸に大神宮碑を見学しなおも進む。

16時40分中村に着き大日寺跡湯殿山神社に参拝する。「湯殿まで 笠の波打つ大井沢」と歌われた湯殿山信仰盛んな頃の壮大な石塔などに目を見張る。明治初期の廃仏棄釈の暴風に見舞われた時、多くの秘宝仏が散逸した悲劇のお話も宮司さんにお聞きし感慨に浸る。



古くからのお宿、「江戸屋」に投宿、濡れた着物を干して大井沢温泉に浸かる。疲れた身体に滲み入る。宿では西川町の方々からの歓待を受け感激する。料理は多く美味しい。疲れも吹き飛びそうだ。明日は晴れることを祈り就寝。

夜半から小雨になるが5時に起き6時朝食、今日は地元の三浦さんが宿から同行していただく。宿前でご主人の佐藤さんとともに記念撮影し6時45分出発。何が何でも湯殿に参るぞと意気込んで。



今日は町駅伝の日で、車がたくさん通りみんなに見られる。北進開始して2時間で国道112号に到着、ここで昨日同行した布施さんと鶴岡の小野寺さんが合流する。ここから弓張平への登りにかかる。足裏が痛いのはマメができているせいかな。気にはなるが歩き続けるしかない、登るにつれ雨も本格的になってきた。

県道の途中、布施さんの先導で立派なグラウンドを横切ると、10時に六十里越街道の古道に到着、茶屋跡近くの道智道に案内していただく。ここから六十里越街道に合流し、この先で湯殿山と庄内に分かれるのだ。体育施設の中を通過し、途中で志田宮司さんが合流、古道を辿り志津に着く。ここまでも、ここにも壮大な石塔が存在する。代参制度も初めて知った。県外の地名があるものも多い、湯殿山信仰の歴史、奥深さ、壮大さが窺えた。

さらに古道を辿り12時ちょうどに玄海に到着、ネイチャーセンターで雨宿りをさせて頂き昼食、宿で作っていただいたシャケ弁当がうまい。ここまで当初は車道を通る予定が、布施さんの計らいで古道を辿ることができ感激である。以前女人はこの玄海までしか来られなかったそうだ。

(次号へ続く)

■「獅子舞シンポジウム」



白鷹町の獅子舞は、「七五三の舞」といって、とても特徴的なものであると聞いています。

「我が家のお宝展」で幾つかの獅子頭が

展示されることになったようです。そこで、「我が家のお宝展」実行委員会が主催して、「獅子舞シンポジウム」が開催されます。

白鷹町史談会が後援することになりましたので、会員の皆さんに詳細をお知らせいたします。こぞって御参加ください。

- 1 期日 平成28年7月30日(土)
- 2 時間 午後2時から午後4時まで
- 3 場所 白鷹町文化交流センター
「あゆむ」文化交流室
- 4 内容 (予定)
 - I 獅子舞の歴史と種類
「獅子舞のことあれこれ」江口儀雄氏
「日本の獅子舞・その全体像」荒川一美氏
 - II 獅子舞の実際について
「鮎貝八幡宮の獅子舞」小林 正氏
「荒砥八幡宮の獅子舞」芳賀康雄氏
「浅立諏訪神社の獅子舞」高橋芳志雄氏

■つれづれなるままに

このところ蚕や天蚕を見せていただいて、それらの歴史などを少し勉強している。

何年か前に、蚕桑の布川さんが蚕を置かなくなって、養蚕家は白鷹町から無くなってしまっていた。ところが会員の金田茂也さんたちが養蚕を再開したという。また、浅立の湯澤亜沙子さんが勤めている会社で、十王に養蚕場を設けて蚕を飼っているのを過日見学した。何とか定着して欲しいと願っている。

天蚕は深山地区の人たちが一生懸命育てている。平成元年からだから28年になるのだと聞いた。天蚕の飼育の仕事には、何回かお邪魔した。今年は、飼育場のネット張り、卵付け、害虫駆除に3回参加した。素人の私などはあんまり役に立たない。けれども、人手が必要なおきにはいないよりましかなと思いながら、少し手伝っている。こんなふうに少し関係ができてくると、虫の様子が気になる。現在は少し心配な状態だ。何とか持ち直して欲しいと思っている。(守谷英一)